

令和2年度 秋葉区組織目標

| | | | |
|-----------|--|----|------------|
| 組織名 | 秋葉区 | 部長 | 秋葉区長 夏目 久義 |
| 組織の目的・方向性 | 秋葉区では、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「花と緑に囲まれた、笑顔咲きそろう、にぎわいのあるまち」を実現するため、秋葉区の特徴を生かしたまちづくりを推進します。 | | |

秋葉区組織目標

秋葉区では、産学官・地域等と連携してまちの活性化と人材(人財)育成を進めるとともに、区民の地域への愛着や誇りを育み、地域資源を生かして交流人口や定住人口の拡大を図ります。

この方針のもと、今年度は次の4つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 産学官及び地域等と連携し、まちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人材(人財)育成等に向けた主体的な取り組みを進めるとともに、アキハスムプロジェクトの理念に基づき、秋葉区の特徴や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進の支援や、市民活動に取り組む新たな人材(人財)を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。
- 2 住民主体の地域活動の深化に向け、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進します。安心安全なまちづくりのため、区民と協働して防犯対策に取り組めます。
- 3 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及し、地域住民や関係機関と連携・協力することで、健康づくりや福祉課題を解決する取り組みの支援と活動を推進します。地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、継続的な支援と仕組みづくりに取り組んでいきます。
- 4 里山の魅力発信や里山と結びつけたまちなかの活性化、次世代につながる環境教育を行います。また鉄道、花と緑、史跡など恵まれた地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

| | | | | | |
|------|-----------|-----|---|-----|--|
| 取組結果 | 重点目標の達成状況 | 目標数 | 4 | 達成数 | |
| | | | | | |

今後の方向性

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5451

| | | | |
|--------|---|---------------|-------|
| 年度 | 2020 | | |
| 組織名(部) | 秋葉区役所 | 組織名(準部・課・機関名) | 地域総務課 |
| 組織の目的 | 区の魅力発信や課題解決につなげるため、産学官、地域等との連携によるまちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。地域コミュニティの主体的な取り組みを支援し、地域課題解決に対応した組織や活動の活性化を支援します。安心安全なまちづくりを推進するため、防犯対策に取り組めます。また区役所が率先して省エネルギーによる環境負荷の低減に取り組めます。 | | |

| | |
|-----|----------|
| 作成日 | 令和2年4月1日 |
| 修正日 | |
| 評価日 | |

| No. | 部区 組織目標 | 組織目標 | 主な取組(事業) | 指標 | | | | | 目標達成状況 | 評価 | |
|-----|------------|---|---|---|---------|---------|---------|------------------------------|--------|---|------|
| | | | | 項目(単位) | H29実績 | H30実績 | R1実績 | R2目標 | | | R2結果 |
| 1 | | 産学官及び地域等と連携し、新潟薬科大学が持つ知的資産と学生の感性やパワーを積極的に活かし、まちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等に向けた主体的な取り組みを進めます。 | ・まちなか活性化実行委員会の開催 ・産学官連携による人財(学生)育成 | 全体会議の開催数(回) | 3 | 3 | 3 | 3 | | ・関係機関等との調整、事業の進行管理 ・H29-31学生コミュニティフィールドワーク | |
| 2 | 1 | 「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。 | ・秋葉区ブランドや魅力の発信 ・秋葉区移住体験ツアー ・移住モデル地区等への支援 ・新たな人財の発掘育成 ・教育懇談会の開催 | 県外からの移住世帯数 | - | - | - | 1 | | ・地域主体による魅力発信や移住者受入体制整備を支援 ・HAPPYターンモデル指定 小須戸地区(H29年11月) 金津里山地区(R1年11月) ・まちづくりに係る企画への支援等 | |
| 3 | | 住民主体の地域活動の深化に向け、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進します。 | ・地域課題の解決策や区政の取り組みをテーマに、区長との意見交換を中心とした地区懇談会の開催 | 地区懇談会開催回数(回) | 11 | 11 | 11 | 11 | | ・地域からの課題をもとに意見交換 | |
| 4 | 2 | 安心安全なまちづくりを推進するため、区民との協働により、防犯対策に取り組めます。 | ・青色回転灯を装着した自動車「青パト」による定期的な防犯パトロールを行います。 ・区民と協働し、安心安全なまちづくりを推進するため、防犯パトロール実施団体の募集を定期的に行います。 | 「青パト」による防犯パトロールの実施回数 、防犯パトロール実施団体の募集 | - | - | - | 青パト月4回 区だよりによる実施団体の募集 年2回 | | H30年中区内の刑法犯総数239件 " 犯罪率3.1件 (8区内で最低) | |
| 5 | | 地球温暖化対策に区役所が率先して取り組み、省エネルギー化による温室効果ガス排出量の削減に努めます。 | ・官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータの活用について検討する。 ・照明器具のLEDへの改修や空調の温度管理により電気使用量の削減を図る。 | 庁舎における電気使用量(kw)の過去3カ年実績との比較 | 320,354 | 304,615 | 321,508 | 315,492 | | ・平成26年3月から太陽光発電設備を設置し稼働したことで、平成30年度は電気使用量のうち年間約8.6%を太陽光発電で賅っている。 | |

| 取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など) | 取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など) |
|--|------------------------------------|
| 産学官及び地域等との連携を深めながら、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。 地域コミュニティ協議会と連携・協力し、区や地域の課題等について意見交換し、具体的方策・対応を共有・検討します。子どもたちを健やかに育てていくための環境づくりを話し合う教育懇談会を開催します。 安心安全なまちづくりを推進するため、区民との協働により、青色回転灯を装着した自動車「青パト」による定期的な防犯パトロールを行い、地域の犯罪の未然防止に努めます。 官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータを活用し、地域におけるエネルギーの最適化について検討します。平成26年に設置した太陽光発電の活用、照明器具のLED化や庁舎内の節電により、低炭素社会実現に向けた取り組みを進めます。 | |

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5711

| | | | |
|--------|--|---------------|-------|
| 年度 | 令和2年度 | | |
| 組織名(部) | 秋葉区役所 | 組織名(準部・課・機関名) | 健康福祉課 |
| 組織の目的 | 区民一人ひとりが、健康で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、地域包括ケアシステムの構築や秋葉区の特性を活かした福祉や健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組むことで、更なるサービスの充実に努め、「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の基本方針である「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指します。 | | |

| | |
|-----|----------|
| 作成日 | 令和2年4月1日 |
| 修正日 | |
| 評価日 | |

| No. | 部区 組織目標 | 組織目標 | 主な取組(事業) | 指標 | | | | | 目標達成状況 | 評価 | |
|-----|------------|---|---|--------------------------------------|-------|-------|-------|-------|--------|---|------|
| | | | | 項目(単位) | H29実績 | H30実績 | R1実績 | R2目標 | | | R2結果 |
| 1 | | 地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、継続的な支援と仕組みづくりに取り組んでいきます。 | ・認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進 (キャラバンメイト連絡会の支援) | 認知症カフェ開催回数(回) | — | — | 9 | 10 | | | |
| 2 | 3 | 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、健康づくりや福祉課題を解決する取り組みの支援と活動を推進します。 | ・障がい者への理解を上げ(つなげる)、仲間づくり(つなげる)の推進(つながる支援ファイルの作成・配付、保護者支援の講座の開催) | つながる支援ファイル利用者数(人) | — | — | 87 | 100 | | ・つながる支援ファイルとは、医療・保健・福祉・教育・労働など各機関の支援を1冊のファイルに記録し、経年的に管理し、保護者が所持するもの | |
| | | | ・身近な子育て支援の充実(子育てサロン・パパママ向けプチ講座・ベビママセミナーの開催など) | 子育て講座等の開催回数(回) | — | — | 122 | 100 | | 目標の回数は、子育て支援センター「新津育ちの森」で実施する子育て講座(区づくり事業の委託分) | |
| | | | ・フレイル予防事業(予防教室・講座、各地域での予防普及啓発・支援など) | フレイル予防教室・講座・地域イベントでフレイル予防の実施延参加人数(人) | — | — | 1,660 | 1,700 | | | |
| 3 | | 窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指します。 | ・各係の業務からテーマを設けて課内研修会を実施 | 研修会実施回数(回) | 7 | 7 | 7 | 7 | | ・各係(担当)1回以上の実施 | |
| 4 | | 継続的に業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。 | ・各係で業務や窓口等における継続的な業務改善を実施 | 改善実践報告の件数(件) | 27 | 21 | 21 | 21 | | ・各係(担当)3件以上の取組 | |

| 取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など) | 取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など) |
|---|------------------------------------|
| 地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進し、区民や地域の団体等とネットワークづくりを行い、区民協働による「認知症高齢者と支える家族にやさしい秋葉区」を目指します。 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指し、地域住民や関係機関と連携・協力し、秋葉区の特性を活かした、高齢者・障がい者・子育て・健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組めます。 窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指し、職員のスキルアップを目指す研修会や継続的な業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。 | |

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5331

| | | | |
|--------|--|---------------|-------|
| 年度 | 2020 | | |
| 組織名(部) | 秋葉区役所 | 組織名(準部・課・機関名) | 産業振興課 |
| 組織の目的 | 区の特徴である「鉄道・花・里山・石油」のキーワードと関連する施設を活用し、交流人口の拡大を図ります。また、関係団体と連携して地域経済の活性化と賑わいのあるまちづくりを進めるとともに、地域の特性を踏まえた農業政策を推進することで、地域農業の持続的な発展を目指します。 | | |

| | |
|-----|-----------|
| 作成日 | 令和2年4月1日 |
| 修正日 | |
| 評価日 | 令和2年4月21日 |

| No. | 部 区 組織目標 | 組織目標 | 主な取組(事業) | 指標 | | | | | | 目標達成状況 | 評価 | |
|-----|----------------|--|--|--|--------|--------|--------|------------|--|--------------------------------------|----|---------|
| | | | | 項目(単位) | 2017実績 | 2018実績 | 2019実績 | 2020目標 | 2020結果 | | | 補足・参考指標 |
| 1 | | 里山の魅力発信や里山と結びつけたまちなかの活性化、次世代につながる環境教育を行います。 | ・里山未来創造事業 | Akihaマウンテンプレーパークの参加者数(子供参加数) | 1,843 | 1,802 | 1,907 | プレーパークの実施 | | Akihaマウンテンプレーパークを実施。 | | |
| | | 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。 | アキハ里山「音楽+アウトドア」体験事業 | アキハ里山「音楽+アウトドア」体験事業参加者数 | — | — | — | 体験事業の実施 | | 地元企業、音楽関係者、県立植物園、新津観光協会と連携し事業実施。 | | |
| 2 | 4 | | ・石油の世界館管理運営 | 石油の世界館来館者数(人) | 9,957 | 10,855 | 9,242 | リニューアルの実施 | | 映像・設備リニューアルを実施。 | | |
| | | | ・Akihaレール浪漫<ren-ketsu> ・磐越西線SL定期運行推進協議会 ・阿賀野川ライン観光協会 | 磐越西線沿線自治体及びJRとの連携協力する事業数 | — | — | 4 | 連携事業の実施 | | SLばんえつ物語号車内イベントやいつ鉄道まつりなどの事業を実施。 | | |
| | | | ・Akiha花一番PR事業 ・園芸推進費(既存事業) | 秋葉区内花き関連施設連携事業数(県立植物園・花夢里・新津FL・うららこすど) | — | — | — | 花き関連施設連携事業 | | 県立植物園・花夢里・新津FL・うららこすどの各施設と連携した事業を実施。 | | |
| 3 | | 起業家の養成講座やシェアオフィス・コワーキングスペース(若者の居場所)の開設を通じて秋葉区の将来を担う社会起業家を育てます。 | ・社会起業家プラットフォーム運営&地域人材発掘・養成事業 | 社会起業家育成講座(参加人数) | — | — | 31 | 90 | 商店街で開店する人や商店街に関係する人を発掘。(H31は1回あたり15人参加)講座は6回開催を予定。 | | | |
| 4 | | 「もち麦」を核に、農業・福祉・健康づくりの各分野で様々な取組を展開します。 | ・Akihaもち麦プロジェクト推進事業 | もち麦販売促進事業 | — | — | — | 3 | | もち麦の販売促進事業を各組織と連携し実施。 | | |
| | | | | 区内産もち麦の取り扱い店舗数 | — | 8 | 18 | 15 | | もち麦を取り扱う健康レストラン等の店舗数 | | |

| 取組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など) | 取組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など) |
|--|-----------------------------------|
| <p>「秋葉丘陵」として親しまれている、緑豊かな里山の魅力ある資源を活かし、「里山未来の種プロジェクト」などに基いた取組みを実施していきます。具体的には、秋葉公園マウンテン・プレーパークでの、こどもを対象とした環境教育や新規である「音楽+アウトドア」体験事業により、移住定住の促進と里山の新たな活用に取り組めます。</p> <p>・地域活性化を図るために、大きな柱となっている花き生産を支援し、また、鉄道のまちとして栄えた歴史を伝える新津鉄道資料館や車両製作所などの鉄道関連施設、全国一の石油採掘量を誇った当時の施設が残る石油文化遺産、ほぼ全ての品種が揃う日本最大のポケ公園を併設する小須戸花とみどりのシンボルゾーンを最大限に活用するほか、磐越西線沿線自治体との連携によるイベントの開催により、観光・交流人口の拡大を図ります。</p> <p>・さらに、新津駅前のまちなか再生の起爆剤として、将来を担う社会起業家を育てることで事業・起業に意欲的な市民が街中に集まる機会をつくり、さらに活動の場を提供します。</p> <p>・農業関連では、米主体の生産から新たな土地利用型作物への転換を進めることも見据え、健康食としての機能性に注目が集まる「もち麦」を核に、農業・福祉・食品産業振興・健康づくりの各分野と連携しながらプロジェクトを展開していきます。</p> | |